

# 奨励賞

○設計者

## 井口 浩

●東京建築士会



○戸建住宅

## カムフラージュハウス3

●長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉

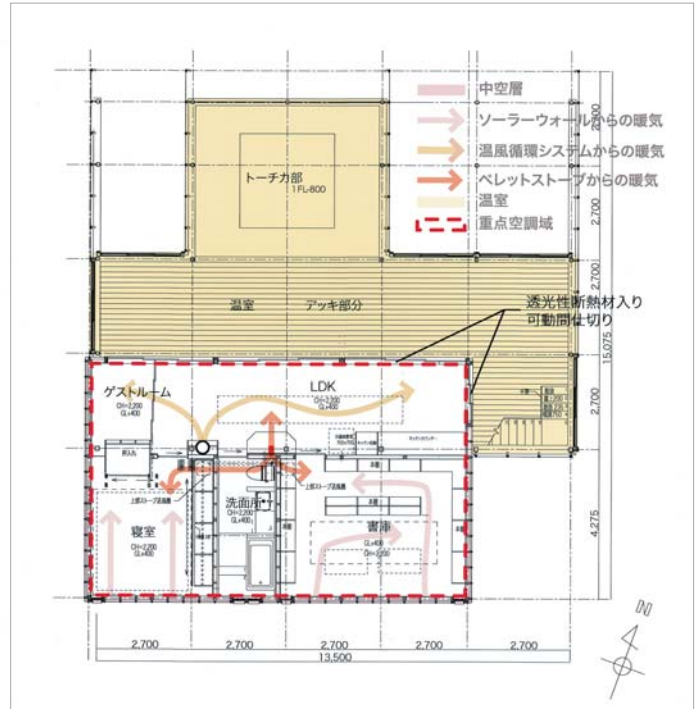
### 選評

片流れのガラス温室に、木質系の母室とよぶボックスを組み合わせた住居である。所在地は長野県軽井沢町であり、別荘建築のように思われるが、ここには研究者である夫妻が幼いお子さんと定住している。

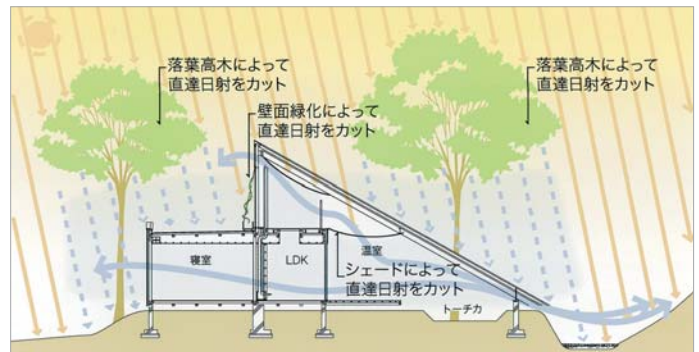
この形式の住居として、トマス・ヘルツォークがレーゲンスブルクに建てた自邸(1977-79)が知られるが、ガラス温室と木質系の箱(母室)を完全に分離し、さらして組み合わせる軽井沢のこの住居は、ヘルツォーク自邸より明快な設計といえよう。建築デザインと環境共生の両立をめざす設計者は、地面を掘り下げて片流れのガラス温室の屋根を地面に接するまで葺き降りし、風景と一体化させる。寒冷地にガラス温室は、熱環境的に有利であるという。

周囲の高木の木立を残すことにより、日差しを和らげるパッシブ・ソーラー効果を利用し、寒暖差の激しいガラス温室内部にはペレットストーブによる温風循環システムを導入している。また、断熱材を組み込んだ木質系の母室とよぶボックスは断熱材を充填した壁面の外装に、ガラスの押縁下見板張りを採用しているので、半透明の断熱材を通して、戸外の木立のシルエットが室内から見られる。2匹の大型犬と屋内に暮らすご家族は、この実験住宅に満足しておられた。

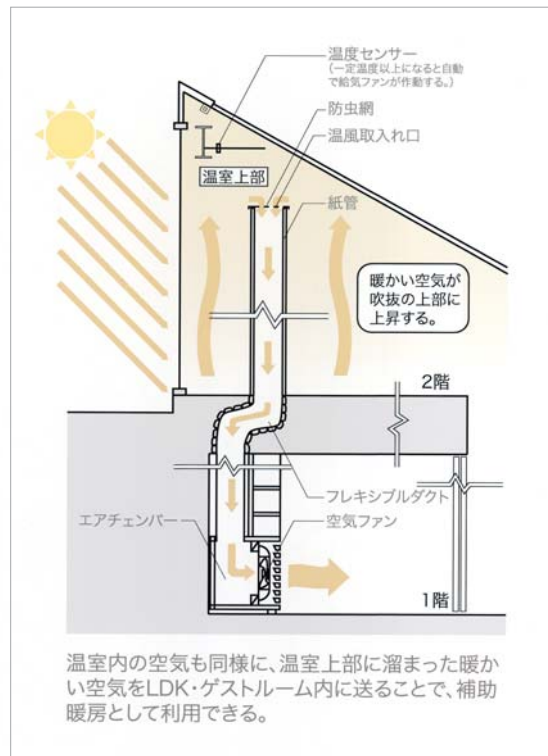
(鈴木博之)



1階平面図 (冬の温熱環境)



夏の写真環境。落葉高木によって直接日射をカットする



温風循環システム略図





A



B

井口浩

カムフラージュハウス3

A：夜景

B：南東側から建物を見る

- 構造・階数：S造および木造、地上2階建
- 敷地面積：1,350.00㎡ ● 建築面積：201.29㎡
- 延床面積：236.81㎡ ● 竣工：2008年4月